

ワークショップに関する理解向上を目的とした 教員養成授業パッケージの開発

Development of an “Understanding Workshop” Program in Teacher Training Course

山内 祐平 *1 森 玲奈 *1 内記 麻子 *2 北川 美宏 *2 木原 俊行*3
Yuhei YAMAUCHI *1 Reina MORI *1 Asako NAIKI *2 Yoshihiro KITAGAWA *2 Toshiyuki KIHARA *3

*1 東京大学 情報学環 *2 CSK ホールディングス *3 大阪教育大学

*1 Interfaculty Initiative in Information Studies, The University of Tokyo

*2 CSK Holdings Corporation

*3 Osaka Kyoiku University

<あらまし> 教員養成課程においてワークショップに関する理解を向上させるための授業パッケージを開発し、大阪教育大学において試行的実践と評価を行った。

<キーワード> ワークショップ, 教員養成, 学習評価, 教師の信念

1. はじめに

子ども向けワークショップの普及により、学校でワークショップを開催したり、児童生徒にワークショップの情報を提供する例が出てきている。このような動きは、2008年4月の中央教育審議会答申における「横の連携：教育に対する社会全体の連携の強化」という方向性と合致し、今後学校教育が社会と連携していくときの鍵になる活動であると考えられる。

しかしながら、現時点ではワークショップを実施する団体と積極的に連携する学校は一部にとどまっている。その背景として過密化するスケジュールなどの制度的要因も考えられるが、筆者らは、以前行った研究から、ワークショップに関する情報の不足や、教師の信念体系とのコンフリクトが主要因である可能性があると考えている。

山内ら(2009)の研究によれば、ワークショップファシリテータ研修を受けた受講者において、教授経験有り群の方が無し群よりも、ファシリテーションの心構えに関する記述が少なく、研修後も増えにくいことが明らかになっている。

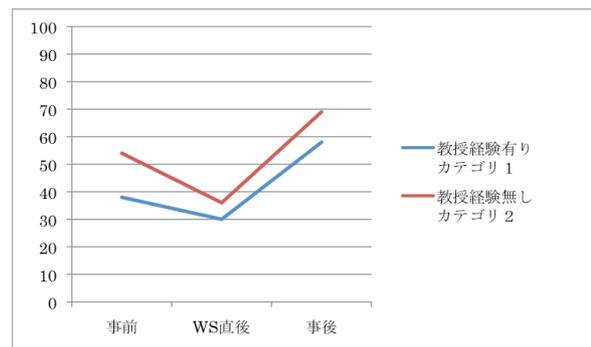


図 1：教授経験による研修効果の差

学校教育である授業と学校外学習であるワークショップは、教育目標や評価に対する価値観に差があるため、信念体系に齟齬と葛藤が起こったためであると考えられる。

2. 研究の目的

本研究では、教員養成の授業において、ワークショップに関する理解を向上させる授業パッケージを開発し、学校外のワークショップ活動と連携できる教員を養成することを目的とする。本研究において対象を教員養成段階に設定したのは、現職の再教育に比べ、より短時間で葛藤状態を解消できる可能性があると考えたためである。

3. 授業パッケージの概要

今回開発した授業パッケージは、教職の選択必修授業の3回分を利用することを想定し、表1のように構成した。このパッケージは、以下の2点を学習目的としている。

1) ワークショップの特徴を理解した上で、小学校での授業設計に関連づけられるようになること。

2) ワークショップの特徴を理解した上で、学校教育と併存させることで児童の学習経験をより豊かなものにしていく活用の在り方を検討すること。

授業の試行は、大阪教育大学天王寺校で開講されている「教育実践の研究Ⅱ」（担当：木原俊行教授）において行われた。

表1：授業パッケージの構成

| | タイトル | 学習目標 |
|---------------|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 (6/9) | ワークショップ 概論 | ワークショップの歴史 と広がりを知る |
| 第2回 (6/16) | ワークショップ 体験 | 実際にワークショップ を体験することで活動 の特徴を考える |
| 第3回 (6/30) | ワークショップ と学校 | ワークショップの特徴 と授業の関係を考えた 上で、学校教育と併存さ せることで児童の学習 経験をより豊かなもの にしていく活用の在り 方を検討する |

「ワークショップ概論」では、ワークショップの歴史的経緯や定義、内容の広がりについて映像を見せながら紹介した。

「ワークショップ体験」は、CSKホールディングスが社会貢献事業として展開するCAMPの出張ワークショッププログラムと連携して実施している。今回は、あだなふだワークショップというインタビューから名札的な立体作品を作る活動を行った。

「ワークショップと学校」では、ワークショップの特徴を授業に反映させた場合どのような活動が可能かという議論と、学校外で行う場合どのような活動の可能性が考えられるかという議論を行った。



図2：ワークショップ体験の様子

4. 実践の結果

第1回のワークショップ概論では、学生はワークショップに関して知識として理解できたものの、教育目標と学習指導要領の整合性や、評価のあり方について既存の教育観とコンフリクトを起こした。

第2回のワークショップ体験によって、ワークショップ活動の持つ教育的意義を実感し、課題において授業に引きつけて考えることができるようになった。

第3回のワークショップと学校では、授業との接続については当初のねらい通りの議論が行われたが、学校外学習についての議論については広がり課題を残す結果となった。

5. 今後の予定

現在、学生のワークショップに関する知識や態度に関する質問紙調査について、授業前と授業後の変化を分析しており、大会当日に報告を行う。

また、6月の実践に関する形成的評価から授業パッケージの見直しを行い、12月に再度試行的実践および総括的評価を行った後、授業案および授業で用いられた提示資料などをウェブに公開する予定である。

参考文献

山内祐平 森玲奈 村田香子北川美宏 (2009) ワークショップファシリテーター研修における参加者の学習過程 日本教育工学会第25回大会発表論文集